

# 埼玉アートシアター通信

SAITAMA ARTS THEATER PRESS



SAITAMA ARTS FOUNDATION  
(財)埼玉県芸術文化振興財団

# 3

2006.5-6



## 蜷川幸雄公開対談 NINAGAWA 千の目

世田谷パブリックシアター  
芸術監督・狂言師

(財)埼玉県芸術文化振興財団  
芸術監督・演出家

## 野村萬斎 × 蜷川幸雄



● 公開対談シリーズ 第2回 ●

まなびし

## NINAGAWA 千の目

野村萬斎

世田谷パブリックシアター 芸術監督・狂言師

Mansai Nomura × Yukio Ninagawa

蜷川幸雄

(財)埼玉県芸術文化振興財団芸術監督・演出家

公開対談シリーズ「NINAGAWA 千の目」の第2回目のゲストは、狂言師であり、世田谷パブリックシアター芸術監督でもある野村萬斎さん。「オイディプス王」など蜷川作品に出演したこともあるだけに、二人の話は演出論から世界の中の日本演劇まで多岐にわたり、尽きることがなかった。

● 野村萬斎 (のむらまんざい)

1966年生。野村万作の長男。祖父故6世野村万蔵及び父に師事。重要無形文化財総合指定者。3歳で初舞台。東京芸術大学音楽学部卒業。「狂言ござる乃座」主宰。国の内外での狂言公演に参加する一方、現代劇や映画『陰陽師』に主演、NHK『日本語であそぼ』に出演するなど幅広く活躍。94年に文化庁芸術家在外研修制度により渡英。芸術祭新人賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、紀伊國屋演劇賞、朝日舞台芸術賞等を受賞。著書に「萬斎でござる」、「狂言サイボーグ」、「狂言三人三様・野村萬斎の巻」等がある。世田谷パブリックシアター芸術監督。

● 蜷川幸雄 (にながわゆきお)

埼玉県川口市出身。シェイクスピアはもとより、ギリシャ悲劇から日本の古典・現代劇まで幅広く手がけ、数々の名舞台を世界に送り出している。昨年も「近代能楽集」ニューヨーク公演、歌舞伎『NINAGAWA十二夜』、『王女メディア』、『天保十二年のシェイクスピア』など多数の演出を手がける。まさに世界を舞台に疾走し続ける演出家。2006年、第5回朝日舞台芸術賞特別大賞、第13回読売演劇大賞・大賞、最優秀演出家賞受賞。(財)埼玉県芸術文化振興財団芸術監督。

photo:幸田 直

苦痛もまた快楽であるかのように  
演じているのが僕にとっては新しい発見

蜷川(以下N) 「NINAGAWA千の目」シリーズ、第2回目のゲストは狂言師の野村萬斎さんです。萬斎さんは優れた狂言師であると同時に、僕のライバルでもあります。萬斎さんは世田谷パブリックシアターの芸術監督、そして時には俳優であるという多彩な活動を行っていらっやいます。今日は親しい友人としていろいろな事をお聞きしたいと思っています。では、萬斎さんです。(拍手)

萬斎さんとは、アテネのヘロデス・アティコスという古代劇場でギリシャ悲劇『オイディプス王』という芝居を2年前にやりました。その時のビデオがあるのでちょっと観ましょうか。

(映写開始)

アクロポリスの麓にあるので、パルテノン神殿が劇場の上の方に見えています。変な緊張感がよみがえりますね。後で観ると自分で、あしたらよかったとか、あそこがいいなあという感慨はあるものですか。

野村(以下M) ありますよ。なんかはずかしい気もします。これ以降は、観客席と舞台という関係性を非常によく考えるようになりました。この劇場は、6000から7000人入れまして、この客席の勾配が急で、のしかってくるようで、ある種ここに立たされると本当に生け贄になるというか、衆人環視に喘いでいるというか、周りから全ての観客に取り囲まれ、追い詰められた獣的な一種の切迫感というのを感じました。

N どうですか、日本の古典芸能はある様式の中、あるいは衣装とか、面とかの中にそれぞれの個性を封じ込めるというか、覆い隠してしまう。その一種のねじれる現象の中で自分自身を表していかなければいけないという所はあるでしょ。

M そうですね。いくら血を流そうと、血を浴びているということはまずありません。だからどこかの中で、血を流していたいという気持ちもあります。

N 初演はこのセットが鏡で出来ていて、萬斎さんが血糊で塗られて出てきた時、この鏡にその血をビシャーと体ごと擦り付けるようこすり付けて、それは本当に泥んこ遊びをしているようにすごく嬉々として、目を失ったことも、苦痛もまた快楽であるかのように演じているのが僕にとっては新しい発見で、ちょっと衝撃的な表現だったのです。

閉じ込められた表現の中で生きてきた人が、閉じ込めた殻を取られたらこんなに生々しく人間的に表現するのだということは、すごく面白くて新しい発見だったので、また萬斎さんと仕事をしようと思う一つの原因でもありました。

その他にリアルな表現を求められたりして萬斎さんは大変だったと思いますが、日本の古典芸能である狂言も出発は野外でやっていたのですね。そこで立ち合いがあったり、他流派との競演があったり、かなりすさまじい芸能のあらわなものだったという気がします。そういう原初の光景などを思い浮かべていて、荒んだというか、雨風の中でなおかつ生き抜こうとするような、初期の芸能の持っていたいろいろな力は脈々と流れている血の存在にあるのかという気がします。が、萬斎さんの中でそういうことは自覚的にあるものなのですか。

M 小さい頃から型にはめ込まれるのが我々の稽古方法なのですが、なぜこの型が出来たのかというような根本を知りたいという欲求



はあります。

そうでないとその型を信用しきれないです。やはりこういうプリミティブの中で何かがあり、だからそれを洗練していくこういう型になったという、結論だけを信じるというよりも、その型が生まれる前のものを突き詰めた中で型がある。だからその根本を知ることによって型が生きていくのかという発想もあるので、逆にいうとリアルに血を流すであるとか、雨に濡れるとか、という事の方が沸き立ってくるということはありません。

狂言の持つ制約を  
逆に想像力のバネにする

N 萬斎さんが演出・出演なさった『間違いの喜劇』は、シェイクスピアの狂言化というか、あれは狂言でいいんだよね。

M そうですね。狂言様式でやるシェイクスピアまでいきたいと思っています。

N その狂言化された芝居をロンドンのグローブ座でも上演されたのですが、そういう挑戦をなさるのは、僕が想像するに、それまでの伝統的なものを踏まえながらなおかつ自由に羽ばたきたいという思いがあるのだろうか。新しい型の創造とか、新しい創造とかを萬斎さんが考えていて、そういうシェイクスピアを上演するのかと想像しますが、どうですか。

M そういう新作に向かう時に、先ほだ言っていた元々の狂言の精神はなんなのかと考えるのです。どちらかというと今は型をきっちりやる芸が評価される部分もちろんありますが、本来はドラマとして、または特に狂言の場合はシチュエーションを見せるという事が一つの命題という気もしました。

ひたすら狂言の元々持っているあり方、シチュエーションを人間の生き様として列挙していくのかもしれないですが、そこで見せるのはイギリスの演劇と違う所だぞというアイデンティティとして見せていきたいと思っています。



**N** 今おっしゃったように狂言の持っているスタイル、あるいは能と能の間にサンドイッチのように挟まっている狂言という存在の仕方も含めて、萬斎さんにはその表現スタイルは不自由なのですか、それとも不自由である事は自由と言い切れるのか、そういう所はいかがですか。

**M** やっと少し自由を感じてきましたかねえ。でもやっぱり不自由だからこそ自由だという。やはり囲いがあるからこそ、そこを乗り越えていく、制約を逆に想像力のバネにしているこういうような事でしょうか。

**N** 僕もそれは分かるような気がします。僕は作者でないから、いつでも他人の書いた言葉によって、あるいは作品の中に自分の思いを込めたりして解釈していくわけで、すぐ自分自身の自由度はないわけです。いつでも他者の台詞の中でしか生きられないと、その不自由さを自分の想像力で補う事によって、自由な場所に行きたいという願望が僕自身を突き動かしていると思っているのですが、それと似たような事はあるわけですね。

まもなく（VTRでカーテンコールで萬斎さんが）出てきます。晴れやかな気持ちよさそうな顔です。（放映終了）

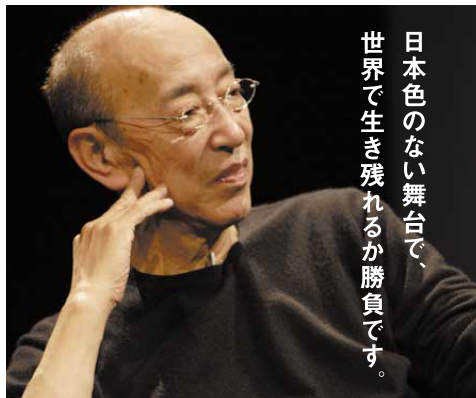
**N** 萬斎さんは映像の仕事をやったりしますが、あれはすごく楽しいのですか。

**M** 楽しいです。普段と違うリアリズムのあり方、制約がないような部分もあります。それと監督との駆け引きとか、カメラマンとの駆け引きであるとかが面白いですね。

僕は結構現場に入ると変わってしまうのです。さっきの血を塗ると急に喜んでしまうのと同じで、実際にセットに入って、メイクしたり衣装を着たりすると突然アイディアなりその人になりきる感じがあのでしょうか。

**N** それはなんとなく分かります。萬斎さんが化粧をしたり、あるいは人に化粧をしてもっている時、鏡の自分を見ながら普段の萬斎さんがどんどん変わっていくのがよく分かります。

**M** 能の舞台には「鏡の間」が幕口の横にあり、面を着けたらずっとその鏡に向かっていく。どちらかというと面が自分の顔で、中にいる自分の素の顔は忘れて、その鏡に写っているキャラクターの方に自分が入っていくという儀式をします。それと同じですね。



日本色のない舞台で、  
世界で生き残れるか勝負です。

## 日本という国のある種の幼児化は大きな問題だと思います

**N** 萬斎さんはご自分で演出もなされますよね。そういう時には演出家としては厳しいのですか。

**M** どっちかという遊び場を仕切る人のような感じで、厳しくはないと思います。（笑い）とにかくこのシーンはどのように遊べるのかと考えるのです。それから道具を出すのが嫌いなので、なるべく人の体でやってしまおうと思ったりします。

**N** そういう意味では、ピーター・ブルックとかテアトル・ド・コンプリシテもそうで、実物を使わないで観客の想像力でその所は補ってもらおうというやり方と系統は似ていますね。

**M** シチュエーションをみんなでやってみて、ここではいったい何があるのかという事が分かってきた所をつないでいくという感じです。僕はいちいち台詞をそんなに深く読み込まないで、みんなでこの状況をやってみようという中で、この台詞はそういう意味なんだという



ことが分かってきたことをだんだん拡大するような形なのです。

蜷川さんもこういうタイプだと決めつけるようではなくて、もちろんいろいろな演出の仕方がお出来になるとは思いますが、最近の傾向とかはどうですか。

**N** 最近は穏やかで、物は飛ばない。最近は即興演出なのです。ノート、台本にも書いてなくて、台本を読んで、いろいろな資料をあたりたり、いろいろと調べてそれだけをインプットして、後は稽古場で俳優の顔を見たり、飾られるセットを見たりしながら演出していくので、決まったことはほぼ大枠としてのセットしかないという中です。そういう準備だけをしながらモダンジャズの即興演奏のようにイメージを繰り出す。だけどそれには今までよりはちゃんとした準備だけはしておいて、俳優の良さを残しながらサジェスションをし、新しい組み合わせが出来ないかなという風を感じて、これを自由というか、ボケというべきかちょっと微妙な所ですね。（笑い）

**M** 蜷川さんの演出は料理に似ているような気がして、やはりいい素材をどう活かすか、これには醤油を足したらいいとか、かけ過ぎてもいけないとか、いろいろな素材を見事に蜷川さんなりに味付けして出すという風に見えるのですが。

僕は今まで自分の父のカンパニーでしか演出した事がないのですが、これから世田谷で演出をしていく中で普通の役者さんも演出していかなくてはいけないということで、ある種非常に気を遣わなければいけないし、怖いという気もします。

**N** やるんだ。

**M** やらないと発展していかないので。僕が演出する限りでは狂言というのが当然一つの発想の元になってきますが、もう一つ発展するためにはやはり現代劇の役者さんなり、もしかしたらコンテンポラリーダンサーの方とか、狂言以外の古典芸能の方も含めた役者達をうまく使えないかと思ったりします。

**N** 日本の演劇界では、若くなくなって、役柄が生活者になっていかなければいけない時に、男優でも、女優でもなかなか演劇界も映像でも居場所がない。でもイギリスだとたくさんいい役をやっている中年の方はいるし、若い人は逆にいい役をやっていない。そうすると日本という国のある種の幼児化というか、若者を大事にする社会であり続けるあり方の中で、中年に差し掛かった生活の重みは喜び、悲し

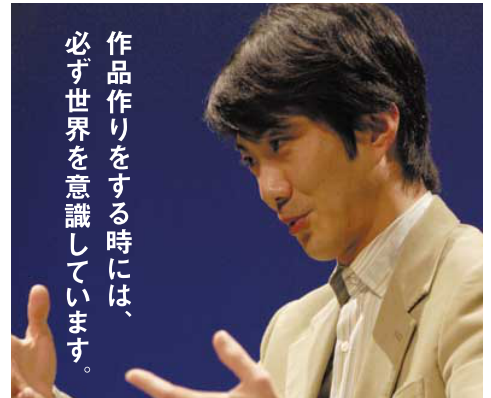
みを本当に実感として豊富に抱え込んだ人たちが中心から外れていく、あるいは育っていかないというのは大きな問題だと思います。それは演劇をものすごく狭めているという感じがしてしょうがない。そういう時に萬斎さんがやる仕事も含めて、俳優教育というか、演劇人教育、そういうある種の戦略として、もう少し中堅クラスといわれる人たちの中心に押し出すという事は考えられないですか。

僕は、ここ（彩の国）さいたま芸術劇場がそういう場でもありたいと思っています。そういう情況の大変さを乗り越えて現代劇は豊かになっていくのだと思うのです。萬斎さんが（世田谷）パブリックシアターでご自分の演出をする時に、そういう事も含めて、幅広く冒険をしてくださるといいなあと思います。同時に現代劇をやるとライブだね。

## 外国では「素」というか、ゼロの人間という意識を持ちました

**M** 蜷川さんは外国公演が多いですが、日本とどう違いますか？

**N** 外国で仕事をするのは、付加価値が付いていないから虚名は通じないですね。我々が外国で仕事をするということは、いろいろな習慣とぶつかりながらしていくわけです。議論をききとやる時は議



作品作りをする時には、  
必ず世界を意識しています。

論をしなから。自論を提示するのは当たり前で、闘争社会の中で自己主張をききとって生き残らなければいけないと思います。

**M** 本当におっしゃる通りですが、特に古典芸能などだと日本での付加価値は異様に高いのです。僕がロンドンに留学していた時には、「おまえは誰？」という感じです。日本にいれば野村万作ジュニアで通っている部分もありますが、向こうでは「素」というか、ゼロの人間という意識を持ちました。

**N** 外国では、日本的な臭いが入っていない舞台は評判が悪いのです。しかし今度、6月にロイヤル・シェイクスピア・カンパニーの本拠地でやる『タイタス・アンドロニカス』にはそれがほとんどないのですが、これで生き残れるか勝負です。

**M** それは本当にここまでいった方だから出来るような感じもいたします。僕などは今は作品作りをする時には、大げさですが必ず世界を意識しています。僕などは古典芸能を中心ですから、逆にいうと日本のテイストというより「絶対おまえには真似が出来ないやり方やってやろう」とか思ったりはします。

**N** 僕は「パール・ギュント」という芝居の時に、お能や狂言のように様式化された演技をイギリスの俳優に要求したら全然出来ないのです。そこが俺たちの勝ちだね。（笑い）

**M** 「オイディプス王」はそうした日本色を踏まえた後で、非常にシンプルになったのだと思うのですが、『タイタス〜』もシンプルにいくという流れはあるのですか。

**N** 一番の切り札（である日本的な要素）を使わなくても、世界的レベルや普遍性に到達出来ると思うし、それでもなおかつアジアの人間としての感性は当然残ると思っています。

野田（秀樹）くんも6月にロンドンで舞台をやると言っていますが、そういう形で越境を軽々とやって、小さな島国にいる我々が世界の中でもう一度問われるチャンスをききと作って、その往復運動を我々がやるようなことが出来ないかなと思っています。僕はもっと暴れまくりたいが、僕の持ち時間はちょっとないので後は萬斎さんに任せますよ。（笑い）

**M** 蜷川さんはまだまだお元氣だと思いますが、私も微力を尽くしていきたいと思っています。



さいたまゴールド・シアター オーディショナルポ

# 新たな表現を求めて

～私たちの人生はまだ終わってはいない～

取材・文 木俣 冬



「俳優の時間で生きてきた人の老い方と、生活者の時間で生きてきた人の老い方は違う。生活者の老いが、表現の回路にうまく当たらないだろうか、それを発掘したい。生活者の実感で作った演劇をやってみたいと思ったんです」  
2006年3月14日。蜷川幸雄の新しい挑戦がはじまった。

ズラリと並んだ審査員

## 北海道～九州、さらにはハワイから。 受験者は1,116人！

「今までの演劇の習慣にとらわれない新しい表現を」探す試み—55歳以上の人々で行う演劇集団ゴールド・シアター発足のためのオーディションが、3月14日～3月30日にわたって連日行われた。応募総数1,273人。蜷川幸雄は、書類審査をしないで応募要件を満たす55歳以上の1,116人全員に会うと決断した。予想外に多い応募者だったため、予定していたオーディション日数を大幅に延長、入っていた2本の舞台の稽古スケジュールも変更するという気の入れようだ。「実際に会ってみないとわからない。40年、人と接する仕事をしてきているから、だいたい

は一瞬でつかめる」のだそうだ。

北海道から九州、さらにはハワイから日帰りで受けに来た人もいた。年齢層も、55歳から80歳までと幅広い。

はるばる遠くから来た人に「受かったら、どうされるんですか？」と蜷川は心配して聞いた。皆、「引っ越して、こちらにアパートを借ります！」と熱い。「お仕事は？」とも聞く蜷川。皆、「辞めます」「(自営なので)人に任せます」と意欲満々だ。人生100年と考えたとして、折り返しに入った人々の生活をガラリと変えてしまうかもしれない活動だ。向こう一年間、毎日俳優としての稽古を行っていくのだから、今までの生活は捨てなくてはならないが、「旦那に内緒で受けに来ました。受かったら、内緒で来ちゃうかもしれない」と笑う主婦もいた。



一緒にウォーミングアップをする蜷川



やったことのない動きに、戸惑いながら、取り組む応募者たち



## 課題はシェイクスピア、三島、チェーホフ！

オーディションは、10人強のグループごとに行われた。まず、ウォーミングアップをしてリラックス。ゴールド・シアター講師の、ヴォイス担当やまものりこ、ムーブメント担当桜井久直、ダンス担当広崎うらん、日本舞踊担当花柳輔太朗などによる、ダンスや体操で緊張した体に酸素と血を行き渡らせる。固まって、会場に入って来た人たちの顔に笑みが浮かぶ。

そして、いよいよ、演技を発表。“生活者の実感”を表現してもらうために蜷川が選んだ課題戯曲は4本。女性用にチェーホフ『三人姉妹』の長女の台詞と三島由紀夫『近代能楽集～卒塔婆小町』の老婆の台詞、男性用にチェーホフ『三人姉妹』の医者、シェイクスピア『リア王』のリアの独白。いずれも、蜷川が舞台演出を行ってきた作品だ。この中から、ひとつを選んで演じる。

「プロフェッショナルの俳優の真似をすることはありません。台詞の中に、自分の記憶の中で気になることがあれば、それを語ってほしいんです」。

蜷川は説明した。

たとえば、『三人姉妹』の台詞には「生きていきましょう」という切実な呼びかけや「存在しないものであったらどんなにいいか」という悲哀がある。55年以上生きてきた人たちが、これらの言葉を語る時、何かたくさんの記憶が言葉に附着し、思いがけない重みや深みを感じさせる瞬間がある。他の台詞や動きがたとえどしくても、台詞とその人の実感がふと重なった時、パッとスポットライトが当たるように空気が変わる時があるのだ。哀しさだったり怒りだったり強さだったり、皮革製品が使い込まれ独特の風合いをもつような表現が。余談ではあるが、昨年初、蜷川の若者たちの演劇研究の場ニナガワ・スタジオのオーディションに年輩の女性が参加していた。受講者の母親くらいの年齢の女性だったが、彼女が清水邦夫の戯曲『明日そこに花を挿そうよ』の中の「生きているものは醜いわ」という台詞を語った時、しみじみした哀感が漂い、心が震えたことが忘れられなかった。その女性は、今年、ゴールド・シアターのオーディションにも姿を現していたという。若さという価値基準だけでない表現の可能性の門戸が開かれることは、日本の文化にとって大切なことだと思う。



『三人姉妹』を一齐に朗読させた



こっちから、楽隊の音楽が鳴ってますと状況を説明する蜷川。本当に、スピーカーから楽隊の音楽が鳴る



白樺の木の代わりに棒を立てる。妹2人も傍らに置いて演技

## 時に厳しく、時に優しい蜷川Eye

蜷川は毎日、毎日、目をこらし、その人の人生を、わずかに数分の台詞の中から発見しようと挑み続けていた。ある時、蜷川が、課題を読み終わった人たちを集めて、一齐に『三人姉妹』のくだりを朗読させたことがあった。「自分の存在をかけて言ってください。もっと心の奥にある気持ちを出して。自分の人生がなんでもなくて忘れられてしまう…涙が出るほど辛い人生なんだ。そのために、お年寄りに会いたいんだ」。蜷川自身が強烈に切実に叫んでいた。そのアジェンションに引っ張られて、次第に高まる蜷川ギリシャ悲劇のクロスのような合唱。「蜷川さんが、10人のひとりひとりをちゃんと見ているのがわかるんですよ」とひとりの受験者は興奮の面もちで語った。

応募者の表現を助けるために、小道具も用意し、BGMやSE

もかけ、雰囲気作りをした。そのため、彩の国さいたま芸術劇場のプロのスタッフが、オーディションに参加していた。なるべく緊張をとろうと、スタッフにスーツ姿をやめさせたり、審査員〇〇〇〇と肩書きを書いた紙を審査席につけるのをやめたり、さりげない気配りも。たくさんの人たちと芝居を作ってきた演出家の視点というのは、こういう細部にまで行き渡るのだと思った。緊張で台詞がとんでしまった人には、「読んでもいいですよ」と、ふだんの稽古では考えられない優しさを蜷川は見せた。「コワイというイメージだったのに、とても紳士的で優しくかった」と応募者は感想を述べた。

応募者は、それぞれに何か表現をしようと試みる。衣裳に工夫をする人、モデルガンを持ってきてつきつける人、小道具の洗面台を倒して水をぶちまける人……。

# SAITAMA GOLD THEATER



観客の千の目を意識して芝居を作っているという蜷川。まさに千（以上）の受験者の目と向き合ったオーディションだった



洗面台が小道具として置かれる。この後よりリアルにと椅子が何脚も用意された



蜷川のアドバイスで演技がガラッと変わる人も

## 2006年4月21日、48人ではじまりました。

写真の撮影は Arnold GROESCHEL  
オーディションは彩の国さいたま芸術劇場小ホール、3月15日に行われたものです。

木俣 冬（きまたふゆ）  
演劇、映画を中心に、プログラム編集、雑誌記事執筆等を行う。キネマ旬報社「アフチュール」にて俳優ドキュメントの連載を開始。「間違いの喜劇」「タイタス・アンドロニコス」のプログラムも編集した。

## 念願だった老人の劇団

オーディションを終えて帰る人たちは皆、熱が冷めないようすで、「受かったら、一緒に住もうって話をしたんですよ」とか「受からなくても、一年後に会いましょうって連絡先を交換しました」などと盛り上がりがあった。「こんなふうになんか新しい出会いをする機会は減多になくなっているんで、新鮮だ」と目をしばつかせているのは、昭和4年生まれの人たち。女学校の時に、演劇をやった味わった舞台に立つ感動が未だ忘れられなくて、北海道からやって来たのだそう。その場にいた方達は、何かしら表現に興味をもって、能を習ったり、地方でミュージシャン活動をしていたりしているという。まさに、『三人姉妹』の「私たちの人生はまだ終わってはいない。生きていきましょう」の世界がそこにあった。

オーディションの合間に、蜷川は、ピナ・バウシュが65歳以上の男女を集めてダンスを行っているという話をしていた。「みんなすごく元気なんだ。ツアーのバスの中ではしゃいでいるんだよね」と。もし、前述の応募者たちが合格して本当に一年間共同生活をはじめたら、不思議な人生が立ち上るかもしれない。

蜷川は、老人劇団の構想は、昔からもっていたそう。「ポーランドの演出家タデウシュ・カントールみたいなことを

やってみたくて思っていたし、『流行通信』で、老人に辻村ジュサブローさんの衣裳を着せるという企画をやったこともあるんですよ。企画に当たって、まずはばくの親父とお袋に、おじいさんとおばあさんがやるハムレットとオフィーリアをやってと頼んで怒られたんだけど（笑）」。

カントールやピナ・バウシュの65歳以上のカンパニーのもうは、5月12日から行われる『videodance 2006』のプログラムに入っている。海外の、年を経た生活者の第2の人生がどれほど力強いのかも興味深い。

蜷川はどんなメンバーを選ぶのだろう。この試みは、蜷川自身が70歳を超えて、もう一度自分の人生を破壊し再生する果敢な試みだ。蜷川と共に走ることは、かなりの覚悟が要りそうだ。なにして、オーディション期間中は、朝6時に起き、9時半からオーディション、午後から舞台の稽古、さらに移動して夕方からもう一本の稽古などというハードスケジュールを毎日こなしていた70歳だ。

「春を感じる余裕もなかった」と笑う蜷川はオーディション最終日には、さわやかなブルー Jeansをはいていた。ゴールド・シアターの春はこれからはじまる。



# オーストラリアン・ダンス・シアター 『HELD』

『HELD』は写真、時間、そして現実の知覚に関するダンス・パフォーマンスである。  
ゲアリー・スチュワートの振付による激しい動きと、写真家ロイス・グリーンフィールドによる  
静止画が、ダイナミックな緊張感を生み出し、重さ／軽さ、静止／流動、  
透明／幻影の行き来の中で目をみはるライブ・パフォーマンスが展開される。

『HELD』は無垢で、不遜で、粗野で、優美で、詩的で、パンクで、  
今で、ポスト終末的で、クールにそっけなく、セクシー極まりない。  
これはとてつもないアートだ。(アレックス・ホイットン dBマガジン)

© Lois Greenfield

## オーストラリアン・ダンス・シアター (ADT) 『HELD』

【日時】 9月30日(土) 19:00 開演  
10月1日(日) 16:00 開演

【会場】 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演目】 『HELD』

【振付】 ゲアリー・スチュワート

【出演】 オーストラリアン・ダンス・シアター  
ロイス・グリーンフィールド(写真家)

【チケット(税込)】 一般 S席 5,000円 A席 3,000円 学生 A席 2,000円  
メンバーズ S席 4,500円 A席 2,700円

【発売日】 メンバーズ 6月3日(土) 一般 6月10日(土)

### オーストラリアン・ダンス・シアター Australian Dance Theatre

1965年にアデレードで設立された。オーストラリアで最も影響力のあるカンパニーのひとつ。40年の歴史の中で幅広いスタイルと様々なディレクターを受け入れてきたが、舞踊家たちには新しい表現を、観客には新しい体験を与えることにおいて常に他をリードしてきた。1999年のゲアリー・スチュワートの芸術監督への就任以降、そのスタイルは、速く、攻撃的で、緊張感に満ちたものに根本的に変化した。ダンサーはクラシック・バレエやコンテンポラリー・ダンスのテクニクにはじまり、体操、ブレイクダンス、武道などのトレーニングも幅広く受け、他に比すべきものがないユニークなダンスを展開している。

### ゲアリー・スチュワート (ADT芸術監督・振付家) Garry Stewart

メルボルンのオーストラリアン・バレエ学校にて訓練を受け、ADT、クイーンズランド・バレエ、ワン・エキストラ・カンパニーなどでダンサーとして活躍した後、振付家としての活動を開始。フリーの振付家として、オーストラリアの主要な現代舞踊団、チャンキー・ムーヴやシドニー・ダンス・カンパニー等で作品を創作する。1999年にADTの芸術監督に任命される。以降、『Birdbrain』、『Plastic Space』、『Monstrosity』、2002年度のオーストラリアン・ダンス・アワードにて振付部門を含む3つの賞を同時受賞した『The Age of Unbeauty』など、話題作を発表し続けている。

## 疑わしきダンスの見方

たとえば、バレエは飛翔浮揚への憧憬が、そのもっとも象徴的な動きのモチーフだといわれる。ダンサーはより高く飛翔し、より長く浮遊することを目指す。けれども人間は自力で、ものの5秒も空中にとどまることが誰一人できない。ダンサーはみんなあきらかにこの不可避の絶望を知っているが、実に華麗に跳び続け、落下し続ける。60年代後半に起ったポストモダンダンスの一群に、ステファニー・エバニツキーがいる。彼女はジャドソンチャーチの内部にロープを張りめぐらし、ダンサーたちはその上部からロープをつたって、ゆっくりと落下し続けるダンスを発想した。そこにはすでに飛翔への憧憬はなく、ひたすら落下していくダンサーという物体があるのみなのだ。H・アールカオスの大島早紀子は、ダンサーをロープに吊ることによって、抛物線上に回遊することを開発した。そして、ADTのゲアリー・スチュワートは、写真家をステージに上げることによって、跳び続け、回転し続けるダンサーを見事に静止させてしまった。

しかしカメラが舞台上に持ち込まれ設置されて、ダンスとライブ映像あるいは写真が、協奏するように展示展開されることは今までに何度もあった。厚木凡人も、ルチンダ・チャイルドも、フィリッ

…ダンサーたちを、天井知らずに舞い上がるかのような飛行中に捉え、またグループ倒立といった不可能な体位で凍結する画像が圧巻。常に大胆不敵で本能的で危険すれすれのスチュワートの振付は、この新作でダンサーたちを更に命取りぎりぎり追い詰める。さあ、エンジンをブルブル鳴らして見に行こう。(キャサリン・グッド アトバタイザー紙)

ブ・ドゥクフレも、伊藤キムも、多くのコレオグラファーがチャレンジしている。しかしここでの明らかな違いは、ロイス・グリーンフィールドという女性写真家を起用していることだろう。初期のララ・ヒューマン・ステップスの格闘技ダンスを髣髴とさせる、それよりもっとマッチョで、ダンスアスリートなADTのダンスを、ロイスが切り取る。それは客観的な記録装置ではなく、私以外のもう一人の観客がいて、しかもダンスの最も近い位置から、ダンスグラフィックを提出し続ける。私たちは舞台を見ているとき、意識の中で自動的に場面をクローズアップしたり、ワイドに見たりしている。けれどもこれだけダンスの内部に入り込み、ムーブメントというより肉体としてダンサーを見た経験がない。『HELD』は、切り取られた「静止」を提示することで、私たちが普段何気なくダンスを見ている「観る」という行為や快楽を疑わしめると同時に、新しいダンスの楽しみ方を教えてくれる。

榎本了壺

榎本了壺(えのもとりょういち)

東京生まれ。武蔵野美術大学造形学部卒業。クリエイティブ・ディレクター、プロデューサー。株式会社アタマテン・インターナショナル代表。日本文化デザインフォーラム幹事。日本ダンスフォーラムボードメンバー。全国税理士共済会文化財団理事。『東京コンペ』プロデューサー。京都造形芸術大学教授・情報デザイン学科長。71年寺山修司監督作品『書を捨てよ町へ出よう』美術担当。天井幾数ヨーロッパ公演美術監督。74年月刊『ビックリハウス』を萩原朝美と創刊。以降、編集、出版、文化イベント、TV番組制作等の仕事を展開する。06年カルチャーメッセ・サイト『コムコム.com』www.komu-komu.comを配信開始。



# 『主役の男が女である時』

Quando l'uomo principale è una donna

ソロダンス  
ヤン・ファールブル

演出・振付・舞台美術



ヤン・ファールブル Jan Fabre

1958年アントワープ（ベルギー）生まれ。アントワープ王立美術アカデミーで学んだ後、演劇と美術の境界を横断するパフォーマンス作品によってアーティストとしての活動を開始した。その活動は、パフォーマンスや演劇、ダンス、オペラ、脚本、造形美術と広範な領域にわたり、ベルギーのみならず海外でも、最も多才な前衛アーティストとして知られている。84年にベネチア・ビエンナーレで発表した「劇的狂気の力—Le pouvoir des folies théâtrales」は、現代演劇の先端に位置する前衛作として注目を集め、世界中で上演された。80年代から現在に至るまで、一貫して人間の肉体を探索の対象とし、アヴィニオン演劇祭で発表された「我は血」（2001年）や王立モネ劇場で上演された「タンホイザー」（2004年）は国際的な評価を獲得した。2005年にはアヴィニオン演劇祭に芸術監督（Associate Artist）として招かれた。

©ANNA DIEHL

## 一瞬たりとも気が抜けない新体験

何らかの理由でオリジナル・キャストでの作品上演にピリオドが打たれた時、凡庸なクリエイターが真っ先に考えるのはそのオリジナルのエビゴネンを見つけることだ。もちろんヤン・ファールブルは超非凡にして実験的行為が大好きな人間。長身でスレンダーなダンサー、リズベット・グルウェーズに与えた『主役の男が女である時』に、誰も思いつかなかった魔法をかけた。いわく、この類希なソロダンスの第二章の担い手として、前任者とは全く個性の異なるダンサー、スーン・イム・ハーを大抜擢したのである。

彼女のお披露目公演となったストックホルムのクルチュールフセツト中劇場には年齢層の異なる観客が駆けつけ、今やヨーロッパの舞踊・演劇界の新しい伝説となった本作のあらゆる動きを見逃すまいと、息をひそめて待っている。そこに登場した小柄な若いアジア系女性。パンツスーツの袴元には胸を覆う黒いテープがのぞく。前任者グルウェーズが最初から両性具有的であるとしたら、彼女はダンスという芸の力を借りて、いったん女から男になり、その後、天井に吊るしたオリブ・オイルの瓶からしたたり落ちる油の面積の増大につれて、今度は最初のフレンドリーでコケティッシュな人間と全く違う“女”という生き物に変身する。ダンサーとしての水準の高さは、着衣のままの踊りでもわかるが、スーン・イムが見せるこの二段階のメタモルフォーシス、実は作品の創り手であるヤン・ファールブル自身が一番最初に驚き、誰よりも興奮したのではないだろうか。つまり、優れた芸術は、いつの間



にかクリエイターの手を離れて独自の進化を遂げるという最もいい例。

日本でも大ヒットしたドメニコ・モドゥーニョの「ヴォラレ」とファールブルの盟友マールタン・ファン・コーウェンバークの音楽が絶妙に組み合わさり、舞台の床面とダンサーの身体全体を覆いつくすオリブ・オイルと共に、今まで見たことのない「ヒューチャー・ボディ」（ヤン・ファールブル談）の動きをサポートする。まるでカーリングのストーンのようにゆっくり床面を正座したままで滑っていくかと思えば、ドキュメンタリー映画「RIZE」の天才ストリート・ダンサー顔負けの激しい回転もあり。こうしたパフォーマンスを見ながらも、頭のどこかではヴァージニア・ウルフの『オルランド』や007シリーズまでを思い出したり、とにかく目まぐるしくも濃密な時間が過ぎていくのだ。

ラストのスーン・イムのイタリア語での一言に、「その通り!」と思わず応えたいくなる。完璧な作品!

佐藤友紀

## 『主役の男が女である時』

Quando l'uomo principale è una donna

【日時】6月30日（金） 開演19:30

7月1日（土） 開演16:00

2日（日） 開演16:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演目】『主役の男が女である時』 Quando l'uomo principale è una donna

【演出・振付・舞台美術】ヤン・ファールブル

【出演】スーン・イム・ハー（本作品はリズベット・グルウェーズとともに2004年に創作された）

【音楽】マールタン・ファン・コーウェンバーク

ドメニコ・モドゥーニョ「ヴォラレ」

【チケット（税込）】一般 S席4,000円 A席3,000円 学生A席2,000円

メンバーズ S席3,600円 A席2,700円

※ヤン・ファールブルとリズベット・グルウェーズの意向により、出演者がリズベット・グルウェーズからスーン・イム・ハーに変更されました。

## — 彩の国さいたま芸術劇場の今後の舞踊公演 —

最注目ダンサー／振付家による奇跡のデュエット

アクラム・カーン／シディ・ラルビ・シェルカウイ

## 『ゼロ度 zero degrees』

【日時】2007年1月12日（金） 13日（土） 14日（日）

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【発売日】10月初旬（予定）

アヴィニオン演劇祭を震撼させた衝撃作

ヤン・ファールブル テキスト・舞台美術・振付

## 『我は血 JE SUIS SANG』〜中世残酷物語〜

【日時】2007年2月16日（金） 17日（土） 18日（日）

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【発売日】11月中旬（予定）







# ピアニスト100

100人を聴く10年、ついにラストシーズンへ。

●●● 音楽監督:中村紘子 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール ●●●



リスト演奏の第一人者  
揺るぎない技巧で  
魅了しつづける鬼才

ケマル・ゲキチ (クロアチア)

1981年リスト国際ピアノコンクール第2位。85年のショパンコンクールでは、優勝候補とされながら審査員の意見が分かれたため本選に残れなかったが、聴衆から圧倒的な支持を受け話題となった。広範囲な活動の他、レコーディングも活発に行い、「超絶技巧練習曲集」のCDではリストの第一人者として不動の地位を得た。

## 93/100 ケマル・ゲキチ Kemal Gekić

【日時】6月17日(土) 16:00開演

【曲目】ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ 第14番 嬰ハ短調 op.27-2「月光」

リスト:超絶技巧練習曲集(全12曲)

リスト:ハンガリー狂詩曲 第9番 変ホ長調「ベシュの謝肉祭」

【チケット(税込)】一 般 S席 4,000円 A席 3,000円

学 生 S席 2,000円 A席 1,000円

メンバーズ S席 3,600円 A席 2,700円



シリーズ最年少!  
審査員を驚愕させた  
豊かな感性

北村朋幹 (日本)

1991年生まれ。3才からヤマハ音楽教室に学び、2004年よりヤマハマスタークラスに在籍。江口文子、丹羽幸の各氏に師事。04年第9回エトリンゲン国際青少年ピアノコンクール(ドイツ)カテゴリーA(15才以下)第5位、05年第10回浜松国際ピアノアカデミーコンクール第4位、同年第3回東京音楽コンクール第1位・審査員大賞を受賞。

北村朋幹さんよりメッセージが届きました。

僕がこのシリーズの存在を知ったのは確か2002年シリーズの時、音楽雑誌が何かのチラシでだったと思います。その時は単純に「自分もいつかこういうステージに立てみたいなあ!」と憧れていました。勿論、本当に出させていただけるなんて夢にも思っていませんでした…。

今回、二部構成のリサイタルをさせていただくのも初めての経験です。色々な面で不安もありましたが折角だから自分の好きな曲を多く入れようと思い、このようなプログラムにしました。シューベルトのソナタやシューマンはあまりやった事なかった新しく取組むジャンルなので、色々迷うこともありますがそれだけにやり甲斐があり、最近とても気に入っている作品の一つです。このような素晴らしい機会を与えてくださった事に感謝しつつ、楽しんで演奏ができれば良いと思っています。

## 94/100 北村朋幹 Tomoki Kitamura

【日時】7月23日(日) 15:00開演

【曲目】J.S.バッハ:イギリス組曲 第3番ト短調 BWV808

モーツァルト:ピアノ・ソナタ 第13番 変ロ長調 K.333

メンデルスゾーン:幻想曲 嬰ハ短調 op.28「スコットランド風ソナタ」

スクヤービン:幻想曲 ト短調 op.28

ベルグ:ピアノ・ソナタ op.1

リスト:ハンガリー狂詩曲 第10番 ホ長調「前奏曲」

シューベルト:ピアノ・ソナタ 第14番 イ短調 op.143 D.784

シューマン:ウィーンの謝肉祭の道化芝居「幻想的情景」op.26

【チケット(税込)】一 般 S席 3,000円 A席 2,000円

学 生 S席 2,000円 A席 1,000円

メンバーズ S席 2,700円



「ピアニスト100」シリーズの第93回に登場するケマル・ゲキチは、85年のショパンコンクールでそのユニークな個性に注目が集まり、日本にも知られる存在となった。その後20年以上が経過し、ぐっと成熟し、その性格をどんどん変えていった。レパートリーはショパンよりもリストを広げ、J.S.バッハからラフマニノフなど様々な曲目にも挑戦している。近年の演奏で印象的なのは、強烈な個性ばかりを探し出すのではなく、作品に真っ正面から向き合っており、その本質をえぐり出そうとする“正統”を強く意識すること。そのためかつての派手さは後退したかも知れないが、表現は充実しつつ、常にチャレンジ精神を忘れず、作品の“ど真ん中”を求めていく。最も“本格的な”ピアノを聴かせてくれる一人であろう。

第94回に登場する北村朋幹は、シリーズ最年少の中学生。彼のピアノを初めて聴いたのは、2004年ドイツ、エトリンゲンの国際青少年ピアノコンクールであった。15歳以下のカテゴリーで参加していた彼は、ピアノの達人な少年参加者の中にあって、自分の音楽を持ちそこに立ち向かう意志の強さを買って“演奏家”気質をはっきりと伺わせ、深い印象を刻み込んだ。演奏する曲目は中学生らしい無理のないものばかりであったが、そこで彼が求める無垢な音質や見通しの効いた構築には心を洗われるような清々しさと喜びがあり、中学生が可能とする演奏の説得力や感動の大きさには、驚くばかりであった。こうした逸材がこのシリーズで披露されるのは、きわめて貴重と言うべきだろう。どうしても聴き逃したくないリサイタルだ。

講演 隆美(いさやまたかよし、音楽評論家)

# Coming >>> >>> Schedule

NO.95~NO.97 発売日:メンバーズ 6月10日(土) 一般 6月17日(土)

## 95/100 アンティ・シーララ (フィンランド) Antti Siirala

主要コンクールを制覇 国際舞台上に躍り出た若手実力派



9月10日(日) 15:00開演

◆曲目 ベーオール・ベートーヴェン・プログラム〜  
ヴラニツキーのバレエ『森の娘』のロシア舞曲による12の変奏曲 イ  
長調 Wo071、6つのパガテル op.126、ピアノ・ソナタ 第5番 ハ短  
調 op.10-1、ピアノ・ソナタ 第6番 ヘ長調 op.10-2、ピアノ・ソナタ  
第7番 ニ長調 op.10-3

★中村紘子音楽監督によるトーク付き

◆チケット(税込) 一般 S席 3,000円 A席 2,000円

学 生 S席 2,000円 A席 1,000円

メンバーズ S席 2,700円

## 96/100 シプリアン・カツァリス (フランス) Cyprien Katsaris

超絶技巧と独特の音楽性 個性溢れる伝説のピアニスト



10月21日(土) 16:00開演

◆曲目 シューベルト3つのピアノ小品 D.946 より 第1番 変ホ  
短調、第2番 変ホ長調/シューベルト(リスト編曲):歌曲 セレナー  
デ、水車屋と小川、アヴェ・マリア/ハイドン:ピアノ・ソナタ ハ長調  
Hob.XVI-35/L、モーツァルト(キャメロン編曲):おもちゃの交響  
曲/リスト(カツァリス編曲):2つのチャールダーシュ より 第2曲  
チャールダーシュ・オプスティネ/ショパン:ワルツ イ短調 op.34-  
2、練習曲 ハ短調 op.25-12、夜想曲 変ホ長調 op.9-2、幻想即興  
曲 嬰ハ短調 op.66、守歌 変ニ長調 op.57/J.S.バッハ(カツァ  
リス編曲):トッカータとフーガ ニ短調 BWV565

◆チケット(税込) 一般 S席 5,000円 A席 4,000円

学 生 S席 3,000円 A席 2,000円

メンバーズ S席 4,500円 A席 3,600円



© 古古亭正彦

## 97/100 キム・デジン (韓国) Kim Daejin

知的な演奏 指導者としても名高い韓国の重鎮



11月19日(日) 15:00開演

◆曲目 ハイドン:ピアノ・ソナタ ハ長調 Hob.XVI-48/プロコフィ  
エフ:ピアノ・ソナタ 第6番 イ長調 op.82「戦争ソナタ」/ショパン:  
バラード 第1番 ト短調 op.23、バラード 第2番 ヘ長調 op.38、バ  
ラード 第3番 変イ長調 op.47、バラード 第4番 ヘ短調 op.52

◆チケット(税込) 一般 S席 3,000円 A席 2,000円

学 生 S席 2,000円 A席 1,000円

メンバーズ S席 2,700円

## 98/100 アルカディ・ヴォロドス (ロシア) Arcadi Volodos



驚異的・超人的なピアニズム  
世界を席巻するヴィルトゥオーゾ

12月9日(土) 16:00開演

★中村紘子音楽監督によるトーク付き

## 99/100 レイフ・オヴェ・アンスネス (ノルウェー) Leif Ove Andsnes



音楽への直截な情熱  
傑出した存在感をもつ北欧の俊英

2007年2月10日(土) 16:00開演

★中村紘子音楽監督によるトーク付き

## 100/100 第6回浜松国際ピアノコンクール 最高位受賞者



ピアノ界の未来を託して  
歴史的瞬間を刻むのは果たして……!

2007年3月

※コンクール本選後に決定

## 急告!

## 埼玉会館ファミリー・クラシック 日程変更のお知らせ

ピアニストの仲道郁代さんによる演奏とお話でお待ちしておりますファミリー・コンサート。前号でのご案内から日程が下記の通り変更になりました。親子で一緒に、クラシックの名曲を心ゆくまでお楽しみください。

【日時】9月18日(月祝) 14:00開演

【会場】埼玉会館 大ホール

【出演】仲道郁代(ピアノ)

【チケット(税込)】

一般大人 3,000円 こども(3歳以上高校生以下) 2,000円

※親子セット(大人とこども同時申し込みの場合):こども 1,500円

メンバーズ大人 2,700円

【発売日】メンバーズ 6月17日(土) 一般 6月24日(土)

※3歳未満のお子様のご入場はご遠慮ください(託児サービスあり)。



# N響

～N響の端正、流麗、華麗な響きを聴く～

今年1月、指揮者なしの演奏スタイルによる「オール・モーツァルト・プログラム」で彩の国さいたま芸術劇場の音楽公演の幕開けを飾ったN響が、指揮者沼尻竜典、チェリスト向山佳絵子という実力派と共に再び登場する。



**Ryusuke Numajiri,**  
Conductor

沼尻竜典(指揮)

1990年ブザンソン国際指揮者コンクール優勝以来、着実に国内、ヨーロッパでの実績を重ねる。オペラから現代音楽まで、その的確な解釈には定評がある。現在、日本フィルハーモニー交響楽団正指揮者。  
2007年4月よりびわ湖ホール芸術監督に就任。



**Kaeko Mukoyama,**  
Cello

向山佳絵子(チェロ)

東京芸大を経て、ドイツリュベック国立音楽大学留学。1985年日本音楽コンクール第一位。1990年ガスバール・カサド国際チェロ・コンクール第1位。JTアートホール室内楽シリーズのプランナー、NHK-FM「おしゃべりクラシック」のパーソナリティ等の他、日本を代表する実力派チェリストとして活躍中。

## NHK Symphony Orchestra, Tokyo

### NHK交響楽団

1926年日本初のプロ・オーケストラとして結成。1951年NHK交響楽団と改称。世界一流指揮者を次々と招聘し、歴史的な名演を残している。2006年には創立80周年を迎え、年間約120回のコンサートを開催。1960年以降の定期的な海外公演、セミ・ステージ・オペラなどの斬新な企画、委嘱作品の充実、メジャー・レーベルとのCD録音など、その活動と演奏は国際的にも高い評価を得ている。



コンサートの幕開けはモーツァルトのディヴェルティメントK.136。イタリア旅行から戻った16歳の若き作曲家の瑞々しい感覚、イタリア的な明るさに満ちた愛すべき小品です。次のハイドンのチェロ協奏曲第2番は、古今のチェロ協奏曲の中でも屈指の名曲。晴朗な響きの中にちりばめられた技巧の華やかさがひととき印象的です。そして最後を飾る交響曲「イタリア」は、メンデルスゾーン作品の中でもとりわけ流麗な響きのすがすがしい人気作品です。

古典から現代曲まで幅広いレパートリーで高い評価を得ている沼尻と、豊かな音楽性と朗らかなキャラクターが魅力の向山を迎えて紡ぎ出されるN響の華麗な響きは、音楽ホールの空間に涼やかな風を運んでくれることでしょう。

### N響 NHK Symphony Orchestra, Tokyo

【日時】 7月17日(月祝) 16:00 開演

【会場】 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】 モーツァルト:ディヴェルティメント 二長調 K.136  
ハイドン:チェロ協奏曲 第2番 二長調 op.101 Hob.VIIb-2  
メンデルスゾーン:交響曲 第4番 長調 op.90 「イタリア」

【出演】 指揮/沼尻竜典 チェロ/向山佳絵子

管弦楽/NHK交響楽団

【チケット(税込)】一般 S席 6,000円 A席 5,000円 学生席 2,000円  
メンバーズ S席 5,400円 A席 4,500円

パリ管弦楽団首席奏者が贈る優雅で華麗なフレンチ・ブラス・サウンド!

# パリ管弦楽団ブラス・クインテット

Quintette de Cuivre de l'Orchestre de Paris



世界最高のオーケストラの1つとして絶賛されている名門、パリ管弦楽団。このオーケストラの首席ソロ奏者が集まり結成された「パリ管弦楽団ブラス・クインテット」は、今回が初来日。伝統の名に恥じない音楽性、そして優雅で輝きのあるフレンチ・ブラスの響きは聴衆を魅了するに違いありません。

演奏する曲目は、フランス音楽を中心とした作品の数々。ドビュッシーのような可愛らしい小品から、誰もが耳にしたことのあるフレンチ・カン・カン。そして壮大なスケールで展開される映画音楽。彼らの奏でる華麗な響きを存分に楽しみください。

## パリ管弦楽団ブラス・クインテット

【日時】 9月3日(日) 15:00 開演

【会場】 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】 ジェルヴェーズ:ルネサンスのフランス舞曲集  
ドビュッシー:亜麻色の髪の乙女/小さな黒人  
フォーレ:パヴァーヌ  
ドルリュ:金管五重奏曲「ステンド・グラス」  
オッフェンバック:フレンチ・カン・カン  
ビゼー:「カルメン」第1組曲  
フレンチ・シャンソン〜ミッシェル・ルグラン、シャルル・トレンの作品より〜

【出演】 トランペット/フレデリック・メラルディ

トランペット/ブルーノ・トンバ

ホルン/アンドレ・カザレ

トロンボーン/ギヨーム・コテ＝デュム＝ラン

チューバ/ステファン・ラベリ

【チケット(税込)】一般 S席 4,000円 A席 3,000円 学生席 1,000円  
メンバーズ S席 3,600円 A席 2,700円

【発売日】メンバーズ 6月10日(土) 一般 6月17日(土)

### フレデリック・メラルディ(トランペット)

Frédéric Mellardi



パリ国立高等音楽院をブルミエ・プリを得て卒業後、リヨン国立歌劇場管弦楽団の首席ソロ・トランペット奏者となる。1997年より、パリ管首席ソロ・トランペット奏者。ポルチア(PORCIA)国際トランペットコンクール(イタリア)1位受賞。

### ブルーノ・トンバ(トランペット)

Bruno Tomba



14歳の時にナンシー国立音楽院で1位を受賞、16歳でフランス東部地方の音楽院統括コンクールで1位を受賞。1985年パリ国立高等音楽院で満場一致のブルミエ・プリを受賞。1992年より、パリ管首席ソロ・トランペット奏者。フランス国内及びヨーロッパ各国にて様々なグループとソロ演奏活動を展開。

### アンドレ・カザレ(ホルン)

André Cazalet



パリ国立高等音楽院にて2つのブルミエ・プリを受賞。アンサンブル・アンテルコンタンボランのソリストを経て、1980年より、パリ管首席ソロ・ホルン奏者。同時に、各地でのソロ演奏活動を展開。また、世界各国から招かれ教鞭を執っている。1985年より、パリ国立高等音楽院教授。

### ギヨーム・コテ＝デュム＝ラン(トロンボーン)

Guillaume Cottet-Dumoulin



10歳の時にユーフォニアムを始める。1996年パリ国立高等音楽院でユーフォニアムと室内楽においてブルミエ・プリを受賞。1995年にトロンボーンを始め、同音楽院でブルミエ・プリを得て卒業。2001年より、パリ管首席ソロ・トロンボーン奏者。

### ステファン・ラベリ(チューバ)

Stéphane Labeyrie



トゥールーズ音楽院を経て、15歳の時にリヨン国立高等音楽院に入学。同音楽院で満場一致のブルミエ・プリを受賞。1995年シドニー国際チューバコンクールをはじめ、数々のコンクールで受賞。1999年より、パリ管首席ソロ・チューバ奏者。



# Communication

普及教育事業 ◎私たちは地域とともに舞台芸術の芽を育む活動を行います。

## 音楽

### 光の庭プロムナード・コンサート 《親子で鑑賞できるプログラム》

～公園や街角で、道ゆく人々がふと足を止めて楽しむことのできるコンサート、それがプロムナード・コンサートです。ここ彩の国さいたま芸術劇場のプロムは、ガラスに周囲を囲まれた「光庭」から差しこむ陽光のなかで、土曜の午後のひとときをクラシック音楽とともに過ごしていただく無料のコンサートです～

今年の「オルガン・ミニ・コンサート」は各回、ポジティブ・オルガンの新たな魅力を発見していただける多彩なラインナップ！さらに充実の2年目、オルガンが奏でる本格的な古楽を、親しみやすいかたちでお届けいたします。

### オルガン・ミニ・コンサート

監修:鈴木雅明 構成:大塚直哉  
会場:彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ  
料金:無料 各回14:00開演(14:30終演予定)



©加藤英弘

#### 2006年

◆5月27日(土) 永見亜矢子(オルガンとおはなし)  
共演:増田貴代子(アルト)  
曲目:スウェーリンク／ファンタジア・クロマティカ ほか

◆6月24日(土) ～ポジティブ・オルガン スペシャル・コンサート～  
早島万紀子(オルガンとおはなし)  
曲目:モーツァルト／きらきら星変奏曲 ほか

◆8月19日(土) ～夏休み子供企画「音楽のかくれんぼ!」～  
大塚直哉(オルガンとおはなし) 共演:鈴木美登里(ソプラノ)  
曲目:J.S.バッハ／インヴェンション より、文部省唱歌／「浜辺の歌」 ほか

◆9月16日(土) 能登伊津子(オルガンとおはなし) 共演:古橋潤一(リコーダー)  
曲目:ボヴィエツリ／「ああ、私はこんなに傷ついて」 ほか

◆11月18日(土) 佐藤礼子(オルガンとおはなし) 共演:高橋絵里(ソプラノ)  
曲目:モーツァルト／アンダンテ ほか

#### 2007年

◆1月20日(土) 浅井寛子(オルガンとおはなし) 共演:久松祥三(マンドリン)  
曲目:ジェルヴァジオ／マンドリンと通奏低音のためのソナタ 二長調  
ヴァレリー／ソナタ 第4番 ほか

◆3月17日(土) ～受講生によるコンサート～  
大塚直哉(おはなし) 「みんなのオルガン講座」受講者(オルガン)

### 午後の室内楽

7月22日(土) 東京交響楽団メンバーによる木管三重奏  
12月16日(土) 東京交響楽団メンバーによる弦楽四重奏

### みんなのオルガン講座 ～Organ for All

講師:大塚直哉 ほか 受講生募集中!



©加藤英弘

- 触ってみようコース(各回30名程度)
- コンサートコース(各回10名程度)

第1回:6月3日(土)  
第2回:11月3日(金祝)  
第3回:2007年1月8日(月祝)

#### <問合せ・申込み>

○講座の詳細についての質問・受講申込みは財団事業部まで  
TEL 048-858-5506

第1回 受講申込み 締切:5月27日(土)

## その他

### 劇場体験ツアー

《親子で参加できるプログラム》



©加藤英弘

昨年大好評をいただきました「劇場冒険ツアー」が、この夏、装いも新たに「劇場体験ツアー」として帰ってきます!様々な世界を自由自在に創り出す舞台技術の仕組みを、子どもたちと一緒に体験します。普段は目にすることができない劇場の裏側を、実際に見て触って体感してみましょう!

#### 日時

8月23日(水) 11:00 開演／15:00 開演

8月24日(木) 11:00 開演／15:00 開演

8月25日(金) 11:00 開演／15:00 開演

\*開場は各回ともに開演30分前

会場:彩の国さいたま芸術劇場 大ホール ほか  
対象:小学生とその保護者

\*原則として未就学児童のご参加はご遠慮ください  
(有料託児サービスあり)。

\*小学3年生未満のお子さまには必ず保護者がご同僚ください。

\*親子で一緒に楽しみたいツアーです。高学年のお子さまの場合でも、できるだけ保護者の方が一緒にご参加ください。

定員:各回先着30名

料金:500円(子ども・大人共通) ※当日精算のみ

受付開始:7月2日(日)より

申込み:048-858-5511

## アウトリーチ

《劇場の外へ舞台芸術をとどけるプログラム》

### 音楽

### MEET THE MUSIC

～アーティストが学校にやってくる!

クラシック音楽を子どもたちのもとへ。音楽家が県内の公立小学校・中学校を訪れ、子どもたちにクラシック音楽を間近で体験してもらう「MEET(ミート)」の今年度実施校が決定しました(年間10校)。2年目となる今年は、世界で活躍する打楽器奏者の加藤訓子さんをはじめとしたアーティストが出演します。体育館がエキサイティングなステージに変身!

- 三芳町立竹間沢小学校 7月11日(火) ◆パーカッション・ソロ
- さいたま市立尾間木小学校 7月13日(木) ◆パーカッション・ソロ
- 上尾市立西小学校 7月14日(金) ◆パーカッション・ソロ
- 秩父市立影森小学校 10月30日(月) ◆木管五重奏
- 本庄市立本庄南小学校 11月2日(木) ◆木管五重奏
- 鴻巣市立常光小学校 11月11日(土) ◆弦楽四重奏
- 久喜市立太田小学校 11月13日(月) ◆金管五重奏
- 越谷市立鷗後小学校 11月16日(木) ◆金管五重奏
- 吉見町立吉見中学校 11月22日(水) ◆金管五重奏
- 杉戸町立東中学校 12月5日(火) ◆弦楽四重奏

出演

パーカッション・ソロ／加藤訓子

金管五重奏(金管五重奏団Buzz Five)／上田仁(トランペット)  
小川聡(トランペット)、友田雅美(ホルン)、加藤直明(トロンボーン)  
石丸薫恵(チューバ)

弦楽四重奏／佐久間瑞穂(ヴァイオリン)、宮澤さやか(ヴァイオリン)、富田大輔(ヴィオラ)、大瀧奈奈(チェロ)

木管五重奏／宮本優美(フルート)、小坂真紀(クラリネット)、藤村理子(オーボエ)、吉村貴弘(ファゴット)、長嶋大士(ホルン)

#### 加藤訓子(かとうくにこ)



桐朋学園大学卒業、ロッテルダム音楽院では打楽器奏者として史上初のクラウド称号を授与され首席で卒業。世界的な指揮者や作曲家から注目される打楽器奏者として世界を舞台に活躍する。1994年から小澤征爾総監督サイトウキネン・オーケストラに参加。ヨーロッパではベルギーのアンサンブル・イクトウスやダンスカンパニー・ローザスとの共演をはじめとして数

多くの国際フェスティバルに参加。第1回リー・ハーワード・スティープス国際マリンバコンクール準優勝、ダルムシュタット国際現代音楽祭でクラニシュタイン賞、愛知県豊橋市文化奨励賞等受賞。2005年1月には英国作曲家ジェームス・ウッドのミュージックシアター「浄土」を総合プロデュースし、各界の話題を呼んだ。音楽教育にも積極的に関わり、海外の音楽院や地元愛知県をはじめ埼玉県でもワークショップやマスタークラスを実施するなど多彩な活動を展開している。

◎アーツシアター通信2号(3月15日発行)掲載の「埼玉会館ファミリー・クラシック」は日程が変更になりました。どうぞご了承ください。  
【公演日:9月18日(月祝)】 ※詳しくはP15記載



～PICK UPでは紹介しきれなかった、公演情報～

## PLAY 7.8～ 源氏語り54帖 罪の輪廻

あらすじ

若菜下一

四年が経過し、東宮が即位し、光源氏はこの一族の繁栄が明石入道の祈願の結果であることを知って、住吉大社に盛大なお礼参りを行った。帝の姉となった女三宮も位が高くなり、紫上だけが将来への不安を押し隠して、六条院の平和を維持していたが、その平和もあつなく崩れる時が来た。朱雀院の五十賀のために、女案に参加し、見事な技量を見せた紫上であったが、緊張の糸が切れたように発病し、治療のために二条院に移った。

若菜下二

六条院にとり残された女三宮に蹴鞠の日の垣間見以来想いを燃やし続けてきた柏木が接近し、思いを遂げた。その結果、女三宮は妊娠し、懷妊を不思議に思った光源氏は柏木の文を発見し、真相を知る。しかし、世間体を恐れて公表せず、ひそかに悩んでいた。密事発覚を知った女三宮も、柏木も怖れたあまり病に沈み、紫上も危篤状態を繰り返し、光源氏が行おうとした朱雀院五十賀は、十二月も押し詰まってようやく行われた。

柏木

柏木は光源氏に睨まれたことで、病の床に沈み、命さえあやうくなった。女三宮は年が明けてすぐ男子を産んだが、光源氏の冷たさに将来を悲観して出家する。これを知った柏木は一層絶望し、親友夕霧に光源氏への謝罪と妻女二宮の行く末を託して亡くなった。光源氏は薫五十日の宴に、薫を抱きながら、その面差しに亡き柏木の面影を認め、息子を見ずに亡くなっていった柏木を哀悼し、自ら犯した昔の密通の罪を償おうとする。

## CINEMA 7.8 彩の国シネマスタジオ 「ホテルビーンズ」



最果ての街。ワケありの者たちがひっそりと暮らすホテル「ビーンズ」。オーナーはビーンズと呼ばれる老オカマ。ホテルの一室一室のドアのように、誰かの心が開くと誰かの心が閉じる日常。傷ついた心を包むのは1杯のコーヒ。この「ビーンズ」にある日不思議な父娘がやってくる。ビーンズの住人たちが、頑なに心を閉ざすこの父娘と触れ合おうとすると、それぞれ自分の心と向き合い過去を見つめなおすことに…。実に哀しくて暖かい物語。

◆7月8日(土) 10:00/13:00/16:00/19:00  
◆彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール  
◆監督:タカハタ秀太 脚本:麻生哲朗  
◆出演:草野剛 中谷美紀 香川照之 市村正親 バク・ジョンウ コドヒ ほか  
(2004年 松竹・アスミック・エース 125分)  
◆チケット(税込):全席自由 前売 一般1,000円 小中高生 800円 当日 各200円増  
◆発売日:メンバーズ 5月20日(土) 一般 5月27日(土)



源氏語り54帖 罪の輪廻 『源氏物語』の最大の見せ場である「若菜」、そして光源氏のかつての因果が巡り来る「柏木」をお送りいたします。

◆第31回 若菜下①(わかなげ①) 7月8日(土)  
◆第32回 若菜下②(わかなげ②) 9月8日(土)  
◆第33回 柏木(かしわぎ) 10月1日(日)  
各回とも14:00開演(13:30開場)  
◆彩の国さいたま芸術劇場 小ホール  
◆出演:幸田弘子(朗読)、三田村雅子(解説/フェリス学院大学教授)  
◆チケット(税込):全席指定 1回券 2,500円 3回連続券 6,600円

## CINEMA 8.5・6 彩の国シネマスタジオ 「ヒトラー～最後の12日間」



日本に上陸した2005年最大の問題作と言えるかもしれない。史上最も有名な独裁者「アドルフ・ヒトラー」の謎に包まれた最期、「ナチス」という一つの組織の崩壊劇。ヒトラー最期の12日間を、最後の個人秘書官ユングが戦後初めてあからさまに告白した実話。絶対と思っていた組織の崩壊に直面する人々の心理的葛藤が究明に描かれる。怪物「ヒトラー」を作り上げた側近たちナチス幹部、それぞれが選択する道は印象深い。

◆8月5日(土)・6日(日) 10:30/14:00/18:30 ※14:00上映終了後、ゲストトークあり  
◆彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール  
◆監督:オリヴァー・ヒルシュベーク 原作:ヨアヒム・フェスト、トラッドル・ユング  
脚本:ベルント・アイヒンガー 音楽:ステファン・ツァハリアス  
◆出演:ブルーノ・ガンツ アレクサンドラ・マリア・ララ ユリジン・ハルフォークほか(2004年 ドイツ 155分)  
◆チケット(税込):全席自由 前売 一般1,000円 小中高生 800円 当日 各200円増  
◆発売日:メンバーズ 5月20日(土) 一般 5月27日(土)

彩の国さいたま芸術劇場 蛭川幸雄公開対談シリーズ

まなざし

# 「NINAGAWA 千の目」 & 「talk・talk・talk」

「NINAGAWA 千の目」第3回

作曲家・舞台音楽家

演出家

宮川彬良×蛭川幸雄

本年1月から、当財団の芸術監督に就任した蛭川幸雄が、彩の国さいたま芸術劇場で『NINAGAWA 千の目(まなざし)』と題し、各界アーティストとの公開対談シリーズを行っています。シリーズ第三弾、対談のお相手は、NHK教育テレビ「クインテット」のアカラさんとして、また「マツケンサンバII」の作曲家として知られる音楽家の宮川彬良さんです。みなさまのご来場をお待ちしています。

【日時】6月3日(土) 14:00～(約1時間)

【場所】彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

【定員】150名

「talk・talk・talk」第2回

美術家・演出家・詩人

人類学者

ヤン・ファールブル×中沢新一  
×長谷川祐子×蛭川幸雄

キュレーター

演出家

【日時】6月29日(木) 19:00～(約1時間)

【場所】彩の国さいたま芸術劇場 小ホール 【定員】346名



中沢新一 (なかにわしんいち)

1950年、山梨市生まれ。東京大学大学院人文科学研究科宗教学専攻博士課程単位取得満期退学。1979年よりネパールへ赴きチベット僧につき密教の修行を積む。帰国後、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助手、中央大学教授を経て、本年度より多摩美術大学教授。また、同大学に新設の芸術人類学研究所所長に就任。著書に『チベットのモーツァルト』(サントリー学賞受賞)『森のバロック』(読売文学賞受賞、以上ゼリカ書房)、『哲学の東北』(斎藤緑雨賞受賞、青土社)、『フィロソフィア・ヤゴニカ』(伊藤整文学賞受賞)『緑の資本論』(以上集英社)、『精霊の王』『カリエ・ソバージュ(全5巻)』(『対称性人類学』で小林秀雄賞受賞)『アースダイバー』(以上講談社)、『芸術人類学』(みすず書房)等、多数。



長谷川祐子 (はせがわゆうこ)

京都市立大学卒業。東京芸術大学大学院美術研究科修士課程修了。1989年より水戸芸術館芸術委員、1992-93年ホットーニー美術館研修(ACC奨学金)。1992年より世田谷美術館委員、1999年より学芸員として金沢21世紀美術館、2005年4月より同美術館、芸術監督を務める。2006年4月より東京都現代美術館事業企画課長、多摩美術大学芸術学科研究室教授に就任。国際美術館会議(CIIMAM)理事としても活躍。『アナザー・ワールド/異世界への旅』(1992-93年、ヤン・ファールブルを含む国際展、水戸芸術館現代美術ギャラリー)、『デ・ジーンダリズム』(1997年、世田谷美術館)、『ファンシー・ダンス:90年代の日本現代美術』(1999年、ソッフェ現代美術館他)、『21世紀の出会いー共鳴、ここから』(2004年、金沢21世紀美術館 開館記念展)、『マッシュ・バーニー:拘束のドロイイング』(2005-06年、金沢21世紀美術館、韓国・アメリカに巡回)等の展覧会を手がける。



### 利用者交流コーナー

施設利用受付窓口とインフォメーション(チケットセンター)の統合にともない、旧チケットセンターを「利用者交流コーナー」として、劇場を利用する皆さまの交流スペースとして活用できるよう整備しました。このコーナーでは、

- 飲食、談話、休憩等ができるよう新たにテーブルとイスを設置しました。
- 当劇場で公演を予定している団体にはポスターを掲示できるスペースを用意しました。
- 劇場を利用している方々のチラシや県内の施設のチラシなどもおけるようチラシスタンドを設置しました。
- 劇場を利用する方々同士での情報交換ができるよう「自由掲示板」を設置しました。
- 劇場を利用する方々の意見が気軽に寄せられるよう「提案箱」を設置しました。

※お問い合わせは劇場利用者担当 048-858-5501まで



宮川彬良 (みやがわあきら)

1961年東京生。81年東京芸術大学作曲科入学。82年「エビータ」を皮切りに劇団四季ミュージカルの音楽(作・編曲・指揮等)を手がける。83年東京ディズニーランドオープン以来、パーク内のエンターテインメントショーの音楽を手がける。92年、オープンした長崎ハウステンボスにおいてもパーク内のショーのほとんどの音楽を作曲している。88年から4年間、NHK総合テレビの音楽番組「音楽・夢コレクション」の音楽監督を務める。数々のミュージカル、ドラマ音楽なども手がけ、95年には武田真治主演で話題を呼んだ「身毒丸」の音楽を担当し、高い評価を得る。大地真央、大浦みずき、坂東玉三郎、本田美奈子、石川さゆりなど多くのアーティストのためのレコーディング・アレンジ・リサイタル等を手がけている。95年からは大阪フィル・ポップス・コンサート(以下「フィル・ポップス」)の音楽監督として、作・編曲・指揮を務め、好評を得ている。そうしたこれまでの活動に対し、宮川彬良／大阪フィル・ポップス・オーケストラは、96年ABC国際音楽賞を受賞した。98年には「大阪フィル・ポップス・コンサート」のCDを録音するなど、精力的な活動を行っている。



ヤン・ファールブル(プロフィールはP12参照)

### 【①「千の目」 ②「talk・talk・talk」応募方法】

はがきに以下の事項を記入の上、締切日までにご応募ください。(応募多数の場合は、抽選を行います。この場合、入場券の発送をもって抽選結果の発表にかえさせていただきます。)なお、メンバーズの方に対する優先枠を設けております。

- 記入事項(①②共通)
  - (1) 郵便番号・住所
  - (2) 氏名
  - (3) 年齢
  - (4) 会員番号(メンバーズの方)
  - (5) 希望人数(1枚のはがきで2名様まで)
- 応募締切
  - ① 5月23日(火)
  - ② 6月10日(土)(いずれも当日消印有効)
- 応募先
  - 〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1
  - (財)埼玉県芸術文化振興財団
- ①「千の目」入場募集係
- ②「talk・talk・talk」入場募集係

●問合せ 財団メンバーズ事務局 048-858-5507



**DANCE**

**彩の国さいたま芸術劇場 videodance 2006**

◆Week2:5月19日(金)～21日(日) [5月19日(金)14:00～21:00 5月20日(土)12:00～21:00 5月21日(日)12:00～21:00] ※5月12日～14日のWeek1は終了しました。


◆彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

◆演出:5月19日(金) バンドネオン・ペノ・アリスのピナ・バグジュ(ピナ・バグジュ)／ディダンの服差し、イタリヤ紀行(ピナ・バグジュ) ほか

5月20日(土) 透明迷宮(並井聡)／ラストバイ(東田貴之) ほか ゲストワーク 荒井美三雄(土方 真「夏の嵐」監修)

5月21日(日) 2リリス(フィリップ・ドックワレ)／小さな朝の詩篇(ジョセフ・ナジ)／ベラ・フィギュラ(イリ・キリアン)／ギエム(シルヴィ・ギエム) ほか

◆チケット(税込):1日券(前売)500円／(当日)700円 全プログラム通し券 2,000円 ※前売・当日ともに同席券 ※通し券は劇場のみ取り扱い



**CINEMA**

**彩の国シネマスタジオ「阿弥陀堂だより」**


◆平成18年6月10日(土) ①10:00②12:45③16:00④19:00 ※②の上映終了後にゲストワークあり

◆彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

◆演出:振付・舞台美術「主役の男が女である時 Quando l'uomo principale è una donna」

◆出演:寺尾聰、樋口可南子、北林谷栄、田村高廣、香川京子、小西真奈美、吉岡秀隆、井川比佐志 ほか (2002年 東宝・アスミック・エース 128分)

◆チケット(税込):全席自由 前売:一般・大学生 1,000円 小中高生:800円 当日:各2,000円増(各回完全入替制)



**DANCE**

**ヤン・ファール 演出・振付・舞台美術「主役の男が女である時 Quando l'uomo principale è una donna」**


◆6月30日(金)19:30開演 7月1日(土)16:00開演 7月2日(日)16:00開演

◆彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

◆演出:振付・舞台美術「ヤン・ファール」 出演:ス・イム・ハー 音楽:マルタン・ファン・コウエンバーク ドメニコ・モドゥーニョ「ヴォーラーレ」

◆チケット(税込):全席指定 一般 S席4,000円 A席3,000円 学生A席2,000円 メンバース S席3,600円 A席2,700円

※ヤン・ファールとリスペット・グルヴェーズの意向により、出演者がリスペット・グルヴェーズからス・イム・ハーに変更されました。



**CULTURE**

**源氏語り54帖 ～罪の輪廻～**

◆第31回／若菜 下 ①(わかなげ ②)7月8日(土) 第32回／若菜 下 ②(わかなげ ②)9月9日(土) 第33回／柏木(かしわぎ)10月1日(日)

各回とも14:00開演(13:30開場)

◆彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

◆出演:幸田弘子(朗読)、三田村雅子(解説／フェリス学院大学教授)

◆チケット(税込):全席指定 一般 一回券 2,500円 三回連券 6,600円



**PLAY**


**「勘九郎改め十八代目 中村勘三郎襲名披露」**

◆7月16日(日)開演 昼の部12:15 夜の部16:15 ◆埼玉県熊谷会館

◆演出:星の部 一、本朝甘四草 十権春 二、十八代目中村勘三郎襲名披露 口上 三、新古典劇十権の 人身替座 夜の部 一、十八代目中村勘三郎襲名披露 口上 二、義経千本桜 木末の 小金若討死 すし屋

◆出演:勘九郎改め 中村勘三郎、中村扇雀、坂東弥十郎、中村勘太郎、中村七之助 ほか

◆チケット(税込):一般 特等席6,000円 一等席2,000円 一等学生席1,000円 おためし席1,000円 メンバース 特等席5,400円



**MUSIC**

**N響 ～N響の端正、流麗、華麗な響きを聴く～**


◆7月17日(月)16:00開演 ◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

◆曲目:モーツァルト:ディヴェルティメント 二長調 K.136／ハイドン:チェロ協奏曲 第2番 二長調 op.101 Hob.VIb-2

メンデルスゾーン:交響曲 第4番 イ長調 op.90「イタリア」

◆出演:沼尻竜典(指揮)、向山佳絵子(チェロ)、NHK交響楽団(管弦楽)

◆チケット(税込):一般 S席6,000円 A席5,000円 学生A席2,000円 メンバース S席5,400円 A席4,500円



**MUSIC**

**熊谷会館ファミリー・クラシック 夏休みオーケストラ!**

◆8月5日(土)15:00開演 ◆埼玉県熊谷会館


◆出演:朝岡聡(ナビゲーター)、飯島龍範(指揮)、東京交響楽団(管弦楽)、福田悠一郎(ヴァイオリン)

◆曲目:ショーマン:幻想曲 ハ長調op.17／ストラヴィンスキー(アゴスティーノ・リッパ)／サラサーテ:カルメン幻想曲／ラヴェル:ボレロ

○指揮者に挑戦!!ビゼー:歌劇「カルメン」より前奏曲 ○オーケストラといっしょに「ビレーヴ」を演奏しよう!(リコーダーや歌で参加してください)

◆チケット(税込):一般 S席3,000円 A席2,000円 学生A席1,000円 メンバース S席2,700円

(親子セット:こども500円) メンバース S席2,700円 ※親子セット:大人十人まで、こども料金が「親子セット価格」になります。※3才未満のおきまは入場できません。



**MUSIC**

**「ピアニスト100」**

**No.92 ホワン・チュファン Huang Chu-Fang (中国)**


**クワイランド優勝! 大きく花開いた期待の新鋭**

◆5月20日(土)16:00開演 ◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

◆曲目:ショーマン:幻想曲 ハ長調op.17／ストラヴィンスキー(アゴスティーノ・リッパ)／サラサーテ:カルメン幻想曲／ラヴェル:ボレロ

○指揮者に挑戦!!ビゼー:歌劇「カルメン」より前奏曲 ○オーケストラといっしょに「ビレーヴ」を演奏しよう!(リコーダーや歌で参加してください)

◆チケット(税込):一般 S席3,000円 A席2,000円 学生A席1,000円 メンバース S席2,700円



**No.93 ケマル・ゲキチ Kemal Gekici (クロアチア)**

**リスト演奏の第一人者 揺るぎない技巧で魅了しつづける鬼才**

◆6月17日(土)16:00開演 ◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

◆曲目:ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ 第14番 嬰ハ短調 op.27-2「月光」／リスト 超絶技巧練習曲集(全12巻)、ハンガリー狂詩曲 第9番 変長調「バシュの謝肉祭」

◆チケット(税込):一般 S席4,000円 A席3,000円 学生 S席2,000円 A席1,000円 メンバース S席3,600円 A席2,700円



**No.94 北村 朋幹 Tomoki Kitamura (日本)**

**シリーズ最年少! 審査員を驚愕させた豊かな感性**


◆7月23日(日)15:00開演 ◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

◆曲目:バチャイリ:組曲 第3番「短調 BWV808」モーツァルト:ピアノ・ソナタ 第13番 変ロ長調 K.333

メンデルスゾーン:幻想曲 嬰ハ短調 op.28「スコットランド風」ナタリ・スクリャーピン:幻想曲 口短調 op.28／ベルク:ピアノ・ソナタ op.1

リズ・ハンガリー:狂詩曲 第10番 変長調 前奏曲「シュベール:ピアノ・ソナタ 第14番 イ短調 op.143 D.784」ショーマン:狂詩曲の謝肉祭「幻想曲」op.26

◆チケット(税込):一般 S席3,000円 A席2,000円 学生 S席2,000円 A席1,000円 メンバース S席2,700円



【お知らせ】平成17年度 彩の国落語大賞受賞者の会として7月9日に予定していました「彩の国さいたま寄席 四季彩亭」は出演者の都合により延期させていただきます。

**チケットの購入方法について**

**窓口 販売**

各会場(彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館)チケット販売窓口にて、3会場のチケットをお買い求めいただくことができます。

**窓口営業時間**

彩の国さいたま芸術劇場 10:00～19:00(休館日を除く)

埼玉会館 10:00～19:00(休館日を除く)

熊谷会館 10:00～17:00(休館日を除く)

**電話 予約販売**

チケットの電話でのご予約は、財団チケットセンターにて承っております。

※埼玉会館、熊谷会館ではチケットの電話予約は行っておりません。

**チケットセンター営業時間**

財団チケットセンター

048-858-5511 10:00～19:00(休館日を除く)

**インターネット販売**

ホームページ(<http://www.saf.or.jp/>)から、空席状況の検索、チケットの購入ができます。

**インターネット営業時間**

一般発売日の10:00から公演日前日19:00まで

**チケット代の支払い方法**

- 窓口 現金、クレジットカード
- 電話 現金、クレジットカード、コンビニエンスストア振込
- インターネット クレジットカードのみ
- コンビニエンスストア振込でのお支払いの場合、入金確認後、チケットを発送いたします。
- お支払いいただく代金は、チケット代金＋セキュリティパック代(400円)になります。
- 各館で、電話予約済みのチケットをご購置、お引き取りいただけます。
- 当日券のご購置にもクレジットカードがご利用いただけます。
- メンバースは口座引落になります。

**セツ券・連続券・学生券などの割引サービスについて**

- セツ券・連続券は、原則として開催日のみ、前売りのみ(開催日の前日まで)のお引き扱いです。
- 学生券をご利用の際は、チケット購入時・公演当日とも学生証をご持参ください。
- 各種チケット割引サービスは併用できません。

**ご注意及びお願い事項**

- チケット発売初日は、1回あたりのご購入・ご予約の枚数を制限させていただきます場合がございます。また、お電話でのご予約の場合、お座席のご案内を行っておりません。ご了承ください。
- ご購入いただいたチケットのキャンセル、交換、再発行は一切できませんのでご注意ください。
- チケット紛失の際は、各公演の主催者にお問い合わせください。

**「サポーター会員」入会のご案内**

財団法人埼玉県芸術文化振興財団では、設立以来10年間、事業活動を通じて県民の皆さまをはじめとして舞台芸術を愛する多くの方々に優れた作品を数多くご提供してまいりました。一方、自ら舞台芸術を制作される県民の皆さまに対しても、日々の稽古の場、練習の場として、またその成果の発表の場として様々な応援をさせていただいております。彩の国さいたま芸術劇場をはじめ、埼玉会館、熊谷会館の企画・運営につきましまして、主として埼玉県から大きな支援を受けておりますが、さらに充実した活動を行うためには、多くの法人・篤志家の方々の財政面でのご協力をお願いしております。埼玉県の芸術・文化活動を推進してゆくうえで、県民の皆さまの暖かいご支援を賜りたく、2005年4月から「サポーター会員制度」を導入いたしました。すでに、多くの県内企業の方々にご賛同いただき、ご入会いただいております。

**■年会費について**

1. 特別サポーター会員 年会費(1口) 300万円(消費税込)
2. サポーター会員 年会費(1口) 10万円(消費税込)

\*ご希望により何口でも申し込みいただけます。有効期限は、入会月から1年間となります。

- 「サポーター会員」の特典
- 特別サポーター
- (1) 劇場サポーターボードへのロゴ・社名掲出
- (2) 財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」、ホームページの社名掲出
- (3) アーティストとのレセプション・パーティへのご招待
- (4) 御社主催コンサート・ワークショップなどの主催(出資別別途)
- (5) 財団主催公演のご招待(全公演2席程度)
- (6) 自主事業公演チケットの20%割引販売
- (7) 財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」定期購読
- サポーター(法人・個人)
- (1) 劇場サポーターボードへの社名掲出
- (2) 財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」、ホームページの社名掲出
- (3) 財団主催公演のご招待(1口10万円につき3万円程度の特定公演にご招待)
- (4) 自主事業公演チケットの20%割引販売
- (5) 財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」定期購読

**■サポーター企業一覧(50音順 4月末現在)**

アサヒ印刷(株)／浦和ロイヤルバインズホテル FM NACK5(株)エフテック

(株)オメガム／金井大道具(株)／(株)亀屋

カヤシステム マシナリー(株)

クレディ・アグリコル アセットマネジメント(株)

(有)青山高夫建築研究所／(有)新資設計工務

埼玉新聞社／埼玉ヨト自動車(株)／埼玉りそな銀行

JAJA埼玉県信連／(株)十万石 ぶくさや／(株)スズセン

ソシエテ・ジェネラル アセットマネジメント(株)

(株)タムロン／東京ガス(株)

東京電力(株)埼玉支店／東芝ライテック(株)

(株)テレビ埼玉ミュージック／日本データコム(株)

(株)パシフィックアートセンター／(株)ビルメン

武州ガス(株)／(株)松本商会／武蔵野銀行

森平舞台機構(株)／リズム時計工業(株)

(株)八木橋／(株)野村フドセンター

**(財)埼玉県芸術文化振興財団 メンバース特典**

彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館共通のメンバーズに入会すると、「便利」で「楽しい」特典がいろいろいただけます。

**年会費:2,000円**

**メンバーズ料金**

財団主催公演で3,000円以上のチケットは10%OFF

**財団情報誌**

彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館で行われる公演情報が掲載されている。情報誌をお手元にご届きます。

**優先予約**

一般発売日より早く、チケットをご予約いただけます。

**プレオーダー**

人気公演はメンバーズの優先予約に先駆けてプレオーダー。※指定席の場合は、お席は抽籤になります。

**レストランでの割引**

彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館のレストランでのお食事が2名様までが10%OFF。

**ポイント制度**

チケットを購入するとポイントが貯まります。貯まったポイントはチケットと交換することができます。※チケット購入金額10円につき1ポイント。1ポイント1円にて換算されます。

**キャッシュレス**

チケット代金、年会費のお支払いは、ご登録いただいた口座からの口座引落になります。

**チケットの安心無料送付**

ご購入いただいたチケットは、セキュリティバックにてお届けいたします。

**その他**

ジョン・リン・ミュージアム(TEL 048-601-0009)への入場料金が割引になります。

大人 1,500円→1,300円

高校生 1,000円→800円

小中学生 500円→400円

表紙 底紙「HELD」©Lois Greenfield

裏表紙 パリ音楽院プラス・ウインド



発行日:2006年5月15日

無断転載

©(財)埼玉県芸術文化振興財団

Published on 15,May 2006

▲ Rights Reserved

by Saitama Arts Foundation

**彩の国さいたま芸術劇場**



〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上郷3-15-1

電話:048-829-2471(代) ファックス:048-858-5515

電車でのアクセス JR埼京線与野本町駅(西口)下車 徒歩7分

または①乗車14分徒歩からJ/R

新幹線から快速で27分、各駅停車で40分

大宮から快速で4分、各駅停車で6分(通車後は停車しません。)

駐車場 155台 最初の一時無料 それ以降は300円/時間

※駐車台数に限りがありますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

**埼玉会館**



〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-1-4

電話:048-523-2535 ファックス:048-829-2477

電車でのアクセス JR京浜東北線浦和駅(西口)下車 徒歩6分

上野駅から各駅停車で27分 大宮駅から各駅停車で6分

駐車場 398台(うち車イス専用駐車2台) 300円/時間 高さ2mまで

※駐車台数に限りがありますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

**熊谷会館**



〒360-0031 埼玉県熊谷市東市3-9-2

電話:048-523-2535 ファックス:048-523-2536

電車でのアクセス JR高崎線熊谷駅(北口)下車 徒歩15分

大宮駅から37分

自動車でのアクセス 関越自動車道東松山インターより16km

※無料駐車場あり。ただし、地方庁舎と合同の駐車場なので、催事によっては駐車できない場合もあります。ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。



# CONTENTS

- 02 NINAGAWA 千の目 野村萬斎×蜷川幸雄
- 06 PICK UP さいたまゴールドシアター オーディション
- 10 PICK UP オーストラリアン・ダンス・シアター『HELD』
- 12 PICK UP 『主役の男が女である時』 演出・振付・舞台美術:ヤン・ファープル
- 14 PICK UP ピアニスト100
- 16 PICK UP N響 ~N響の端正、流麗、華麗な響きを聴く~
- 17 PICK UP バリ管弦楽団ブラス・クインテット
- 18 Communication 普及教育事業
- 20 EVENT INFORMATION
- 22 EVENT CALENDAR



<http://www.saf.or.jp/>